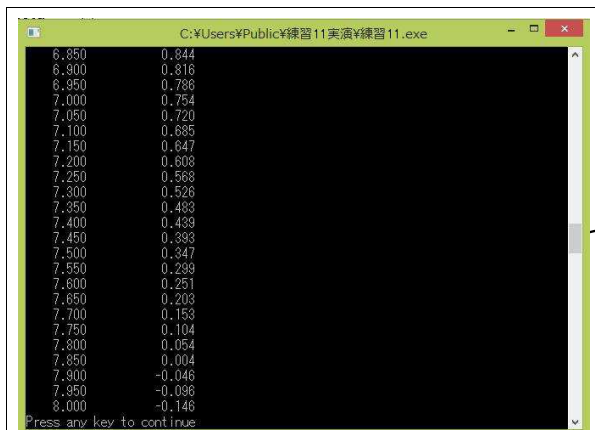


バッチファイルによるプログラムの実行

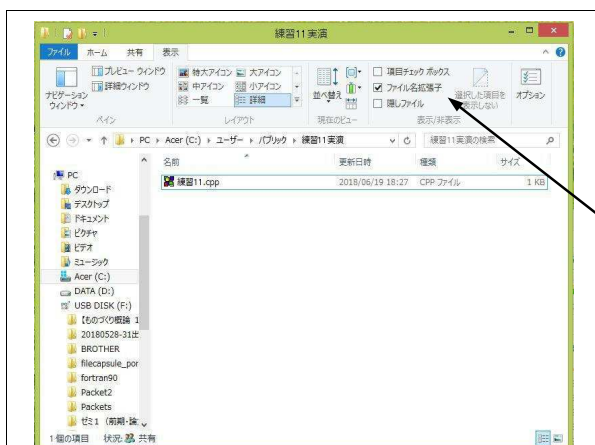
Cプログラムをビルドし実行すると、DOS プロンプトが開いて計算結果が表示される。このとき表示の行数が多すぎると初めの方の表示は保持されない。そこで、以下の手順でプログラムの実行結果をテキストファイルに保存する。



① プログラムを実行すると開く DOS プロンプト

DOS プロンプトへ印字された文字はマウスの右クリック→「すべて選択(S)」に続けてキーボードの Ctrl + C でクリップボードへコピーできる。

DOS プロンプトウィンドウの表示範囲を超えた行でも、スクロールバーを操作して見る事ができる。保持される行数に上限があり、Windows 8 の場合は 300 行まで。

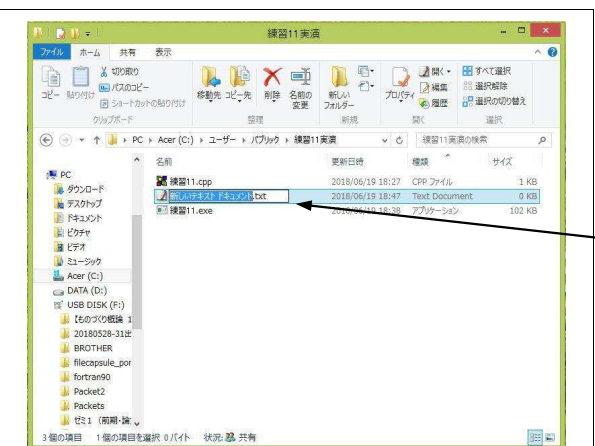


② ファイル拡張子を表示するようにフォルダオプションを変更

Cプログラムのソースファイル〇〇〇.cppをビルドすると同じフォルダに実行形式ファイル〇〇〇.exeが作られる。

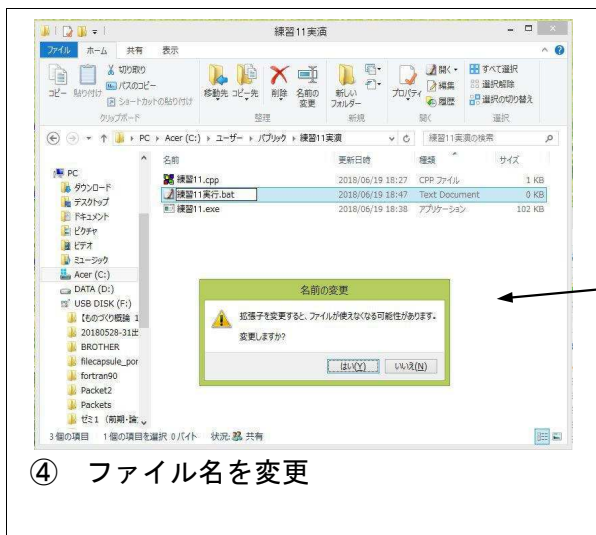
以下ではCプログラムのファイル名を”練習11.cpp”として説明する。

ファイル拡張子(.cppや.exeなど)が表示されない場合は、フォルダウィンドウの「表示」タブ→「ファイル名拡張子」のチェックをオンにする。



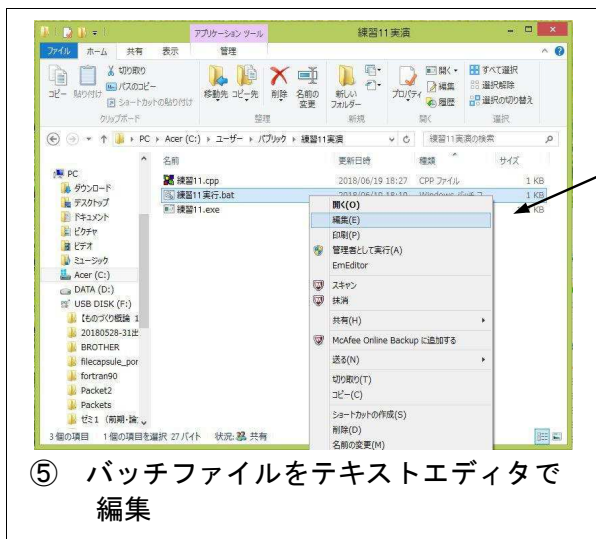
③ 新規テキストドキュメントを作成

”練習11.exe”のあるフォルダに移動して、「新規作成」→「テキストドキュメント」で”新規テキストドキュメント.txt”を作成する。(ファイル名はすぐ変更するので適当でよい)



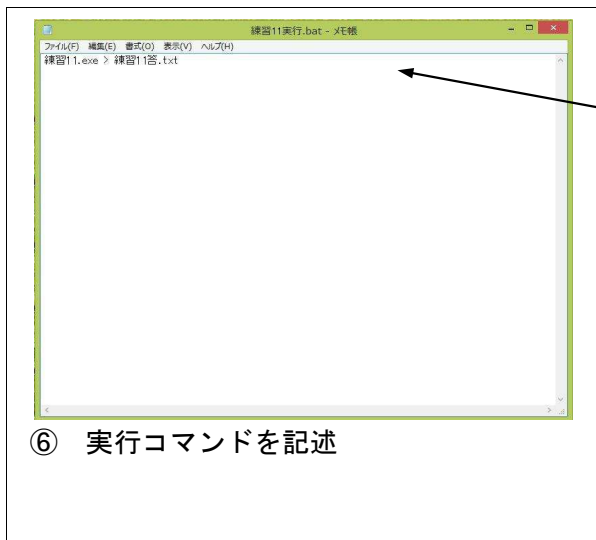
作成した新規ファイルのファイル名を”練習 11 実行.bat”に変更する。
 (ファイル名は自分でわかるように自由につけてよい。〇〇〇.bat)

拡張子の変更について確認のメッセージが表示されるので、「はい (Y)」を選択。



”練習 11 実行.bat”の内容を記述するには、”練習 11 実行.bat”を選択し、右クリック→「編集」を選択する。

”練習 11 実行.bat”を選択し、右クリック→「開く」を選択すると、バッチファイルの内容を実行してしまうので注意すること。

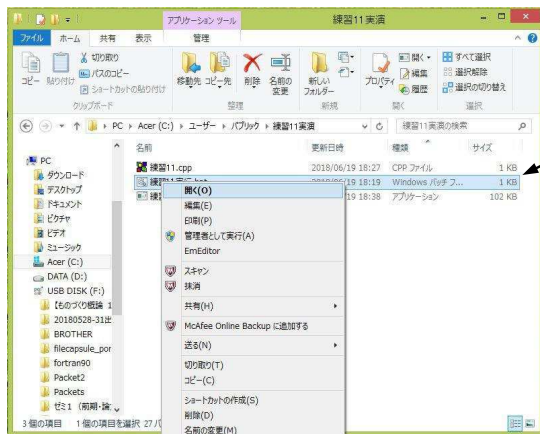


”練習 11 実行.bat”の内容（実行するコマンド）を書く。

練習 11.exe > 練習 11 答.txt

は、「練習 11.exe」を実行し、ウィンドウへの表示を”練習 11 答.txt”に書き込む」ということ。

コマンド行の最後に「Enter」を入力し改行すること。

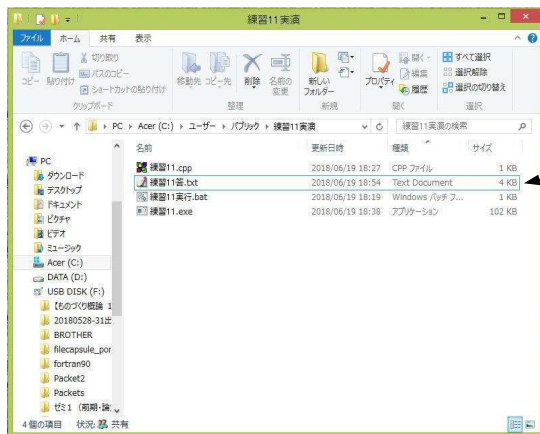


⑦ バッチファイルを実行

”練習 11 実行.bat”を選択し、ダブルクリックもしくは、右クリック→「開く」で、バッチファイルの内容が実行される。

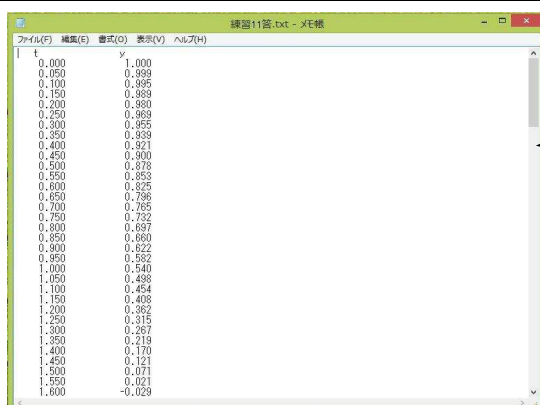
バッチファイルは書かれている OS コマンドを 1 行ごとに実行する。コマンドには、ファイルの「移動」や「コピー」, 「名前の変更」, 「削除」などがある。

中身の分からないバッチファイルを不用意に「開く」ことは危険なので、絶対にしないこと。



⑧ 出力ファイルが作られる

”練習 11 実行.bat”を実行すると同じフォルダに”練習 11 答.txt”が作られる。



⑨ 出力ファイルの内容

”練習 11 答.txt”にプログラムの実行結果（画面への印字）が記録されている。これをコピーしてエクセルのシートに貼り付けてグラフを作成する。